

三好 達治(1900年～1964年)

三好達治は、明治33年(1900年)、自叙伝では大阪市西区西横堀町(該当の町名はない)に、戸籍では大阪市東区南久宝寺一丁目(現中央区南久宝寺町一丁目)に生まれ、昭和39年(1964年)4月5日死去した。

韃尋常小学校(昭和17年廃校)を卒業し、市岡中学校(現市岡高等学校)に入学。中学二年から陸軍幼年学校、陸軍士官学校へとすすむが中退し、第三高等学校(現京都大学)を経て、東京帝国大学文学部仏文科にすすんだ。

大正15年、梶井基次郎、中谷孝雄らの同人誌「青空」や、百田宗治主宰の雑誌「椎の木」などに作品を発表して注目された。

昭和3年大学卒業後、「詩と詩論」や「詩・現実」に加わり、同5年、最初の詩集「測量船」を刊行して、文学的地歩を確定した。その後、昭和7年、「南窗集」を刊行、同9年には、堀辰雄、丸山薫らと詩誌「四季」を創刊し、「閑花集」「山果集」などを刊行した。

昭和14年に「艸千里」を同16年には「一点鐘」を出す頃から詩人としての名声が高まり、「当代ならびなき詩人」と称された。

昭和19年、福井県坂井郡雄島村(現坂井市三国町)へ疎開し、昭和24年まで5年間滞在。「砂の砦」「鷗」などを発表した。

他に、「駱駝の瘤にまたがって」「百たびののち」等の詩集があり、明治以降、作品が千篇を越えるという詩人は、彼以外にはいないといわれている。

その詩は、古典的な抒情をたたえながらも常に清新であり、「万葉にはじまる日本抒情詩の中に一つの近代を確立した」といわれている。

「乳母車」は大正15年「青空」に発表された詩壇へのデビュー作であり、永遠の郷愁と母への慕情のはてしなさをあらわしているといわれている。

墓所は、大阪府高槻市上牧町二丁目の本澄寺。



三好達治文学碑 (碑文:「乳母車」)

場所: 北区中之島一丁目 中之島公園内
交通: 地下鉄: 淀屋橋 (1号出口)・北浜 (26号出口)
京阪: 北浜 (26号出口)

(中之島公園 市役所と府立図書館の間の階段を降りて、左方向です。)

乳
母
車

三好達治

母
よ

淡くかなしきもののふるなり
紫陽花いろのもののふるなり

はてしなき並樹のかげを
そうそうと風のふくなり

時はたそがれ

母よ 私の乳母車を押し

泣きぬれる夕陽にむかつて
隣々と私の乳母車を押し

赤い総ふさある天鷲びろおど絨の帽子を
つめたき額にかむらせよ

旅いそぐ鳥の列にも
季節は空を渡るなり

淡くかなしきもののふる
紫陽花いろのもののふる道

母よ 私は知つてゐる
この道は遠く遠くはてしない道

この道は遠く遠くはてしない道